

---

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

---

2007年4月11日号

◎ 中国 2007年2月の対日農産物輸出額、対前年比34.4%の大幅  
【中国商務部】

中国商務部によれば、2007年2月の中国の対日農産物輸出額は6.0億ドル、前年比34.4%の大幅な増加となり、2006年5月29日のポジティブリスト制度導入後、最大の増加率となった。

しかし、商務部農産物貿易専門家は、2007年は春節が遅かったことなどの要因によるところが多く、増加傾向が持続する可能性は少ないと分析している。

以下は、中国商務部による2007年2月の対日農産物輸出実績の分析である。

2007年2月の対日農産物輸出の主な特徴は以下のとおりである。

- ① 主要輸出部門である水産、園芸、畜産の輸出額が大幅に増加  
水産物部門は2.0億ドル、前年比57.5%増、畜産物部門は8,247万ドル、前年比45.8%増、園芸部門は1.7億ドル、前年比20.1%増となった。  
しかし、主要輸出農産物部門が大幅に増加したと同時に、一部の品目では、日本の検査命令の影響により輸出が大幅に減少した。そのうち、ネギは171万ドル、前年比63%減、シイタケは985万ドル、前年比16.9%減となった。
- ② 東部・中部などの伝統的輸出地区の対日輸出が回復  
1月には東部・中部地域の対日輸出が停滞・減少し、中国対日輸出第1位の山東省では前月比10%減となった。しかし、2月になると、東部・中部地域の対日輸出は増加に転じ、東部地域は同36.4%、中部地域は同20.3%の増加となった。

そのうち、山東省は1.9億ドル、前年比83.9%増、遼寧省は6,283万ドル、前年比67.7%増であった。

③ 民営企業の増加が著しく、外資系企業も回復著しい

民営企業は、1.2億ドル、前年比53.3%増（前月比23.9%増）であった。

一方、外資系企業は減少傾向から増加に転じ、3.5億ドル、前年比41.0%、対日輸出増加額における寄与率は6.6%であった。

また、集団企業、国有企業も減少傾向から増加に転じ、各々16.6%増、6.5%増となった。

④ 対日農産物輸出単価は低迷

日本総務省統計によれば、1月の日本国内食品消費価格は前年比を0.2%下回った。

そのうち、野菜価格は9.6%下落したが、果実、肉類の価格は各々15.5%、2.0%上昇した。

また、2月の日本円為替レート下落（対ドル2.2%安）と人民元為替レートの上昇（対ドル3.8%高）の影響で、中国の対日本輸出農産物の人民元輸出単価は下落した。特に、野菜の対日輸出価格は下落傾向が継続している。

2月の中国の対日輸出農産物では、42件（前月56件）が違反となった。前月と比べると減少しているが、一部の品目では引き続き違反が多く、輸出企業と政府関連部門は注視する必要がある。そのうち、米粉、もち米粉の遺伝子組換え未検査の違反は11件と前月の5件を上回っており、この問題を日本側は注視している。

商務部農産物貿易専門家によれば、2月の中国農産物輸出増加率は63.7%であるが、この背景には対日輸出の回復がある。しかし、今年は春節が遅かったこと、関税コードと統計の調整等の要因を除くと、対日輸出増加が継続する可能性は少ない。同時に、3月に公布された日本の《2007年度日本輸入食品監視指導計画》を見ると、日本は輸入農産物の監視を強化し、サンプル抽出率は前年比1.6%増の計画である。

全体的には、2007年の対日農産物輸出は、依然としてある程度の困難を伴うであろう。